

2011年3月期（2010年度通期）
決算説明会

株式会社トクヤマ

2011年5月13日

CONTENTS

—説明内容—

- 1 10年度決算説明
- 2 11年度業績予想
- 3 前中期経営計画の総括
- 4 トピックス
- 5 補足資料

1 10年度決算説明

1.決算概要

2.決算要因分析

前期比

(参考)セグメント別売上高／営業利益

予想比

① 10年度決算説明

1.決算概要①

(億円)

	10年度実績		09年度実績		差 異			
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
損益概要					金額	%	金額	%
売上高	2,897	1,977	2,731	1,879	+166	+6	+98	+5
売上原価	2,097	1,401	1,964	1,309	+132	+7	+91	+7
販管費	599	416	601	421	▲ 2	▲ 0	▲ 4	▲ 1
営業利益	201	159	164	148	+36	+22	+11	+8
営業外損益	▲28	▲23	▲11	▲20	▲16	▲148	▲ 2	▲13
経常利益	173	136	153	127	+19	+13	+8	+7
特別損益	▲17	▲29	▲24	▲41	+6	+28	+11	+28
税前利益	155	106	128	86	+26	+21	+20	+24
法人税等	57	39	54	31	+3	+7	+8	+27
純利益	97	67	74	55	+23	+31	+12	+22

① 10年度決算説明

1.決算概要②

(億円)

	11年3月末		10年3月末		増 減	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
資産状況						
総資産	4,747	4,126	4,528	3,916	+218	+209
流動資産	2,186	1,798	2,242	1,887	▲55	▲89
固定資産	2,560	2,327	2,286	2,029	+274	+298
純資産	2,476	2,219	2,436	2,201	+40	+18
自己資本比率	50.8%	53.8%	52.4%	56.2%	▲1.6ポイント	▲2.4ポイント

① 10年度決算説明

2. 決算要因分析

① 当期決算のポイント

② セグメント別 売上高／営業利益
前期比

① 10年度決算説明／2.決算要因分析

① 当期決算のポイント 前期比

販売数量・価格

多結晶シリコンの販売数量は半導体市場の回復、および太陽電池市場の伸びを背景に増加、価格は主に円高の影響により下落

セメントは、需要低迷により販売数量減、年度後半は底打ち感あり

化学品は、ナフサ上昇に伴い石化製品の価格を是正、苛性ソーダの価格は下落

セメント事業構造改革

約15億円の固定費削減を達成

東日本大震災の影響

直接的被害は比較的小さく、損害額は大きくない

① 10年度決算説明／2.決算要因分析

②セグメント別売上高／営業利益 前期比

(億円)

	10年度実績		09年度実績		差 異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	791	24	725	31	+65	+9	▲7	▲23
特殊品	967	163	886	140	+81	+9	+23	+17
セメント	644	20	646	13	▲1	▲0	+6	+50
機能部材	432	20	420	11	+12	+3	+9	+81
その他	412	23	362	21	+50	+14	+1	+9
計	3,249	252	3,041	218	+208	+7	+33	+16
セグメント間 消去・全社費用	▲351	▲51	▲309	▲54	▲42	—	+2	—
連結決算	2,897	201	2,731	164	+166	+6	+36	+22

* 各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

① 10年度決算説明／2.決算要因分析

(参考)セグメント別売上高／営業利益 予想比

(億円)

	10年度実績		10年度予想		差異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	791	24	795	20	▲3	▲0	+4	+21
特殊品	967	163	955	150	+12	+1	+14	+9
セメント	644	20	610	10	+34	+6	+10	+108
機能部材	432	20	450	25	▲17	▲4	▲4	▲19
その他	412	23	410	20	+2	+1	+3	+18
計	3,249	252	3,220	225	+29	+1	+27	+12
セグメント間 消去・全社費用	▲351	▲51	▲360	▲50	+8	—	▲1	—
連結決算	2,897	201	2,860	175	+37	+1	+26	+15

* 各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む
10年度予想は10年11月11日公表数値

2 11年度業績予想

1. 今後の事業環境
2. 業績予想
3. 業績推移

② 11年度業績予想

1. 今後の事業環境

化成品

- ◆ 原燃料価格上昇により、厳しい事業環境が続く

特殊品

- ◆ 半導体市場は震災の影響による需要動向を懸念、太陽電池市場は成長を継続
 - ・ 多結晶シリコンの需要は堅調で、前期なみの販売数量を見込む

セメント

- ◆ 原燃料価格は上昇し、内需は4,000万トン程度を予想
 - ・ 事業構造改革の推進、価格是正により、利益確保に努める

機能部材

- ◆ グループ経営強化で収益拡大を目指す
 - ・ エクセルシャノングループは2012年3月末の改修完了を目指し、信頼回復に努める

* 11年度より、「化学品セグメント」を「化成品セグメント」に名称変更

② 11年度業績予想

2.業績予想

①業績予想の前提

②業績予想

前期比

③セグメント別業績予想

前期比

② 11年度業績予想／2.業績予想

① 業績予想の前提

	11年度 会社予想	10年度 実績	10／下 実績	10／上 実績
国産ナフサ価格 (円／KL)	62,000	47,480	48,750	46,200
為替 (円／\$)	90	86	82	89

② 11年度業績予想／2.業績予想

②業績予想 前期比

(億円)

	11 予想		10 実績		差 異			
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
収益状況					金額	%	金額	%
売上高	3,100	2,130	2,897	1,977	+202	+7	+152	+8
営業利益	200	160	201	159	▲1	▲1	+0	+0
経常利益	180	140	173	136	+6	+4	+3	+3
当期純利益	100	80	97	67	+2	+2	+12	+19

② 11年度業績予想／2.業績予想

③セグメント別業績予想 前期比

(億円)

	11 予想		10 実績		差 異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	940	20	791	24	+148	+19	▲4	▲17
特殊品	980	180	967	163	+12	+1	+16	+10
セメント	650	20	644	20	+5	+1	▲0	▲4
機能部材	465	15	432	20	+32	+7	▲5	▲26
その他	420	15	412	23	+7	+2	▲8	▲37
計	3,455	250	3,249	252	+205	+6	▲2	▲1
セグメント間 消去・全社費用	▲355	▲50	▲351	▲51	▲3	—	+1	—
連結決算	3,100	200	2,897	201	+202	+7	▲1	▲1

* 各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

② 11年度業績予想

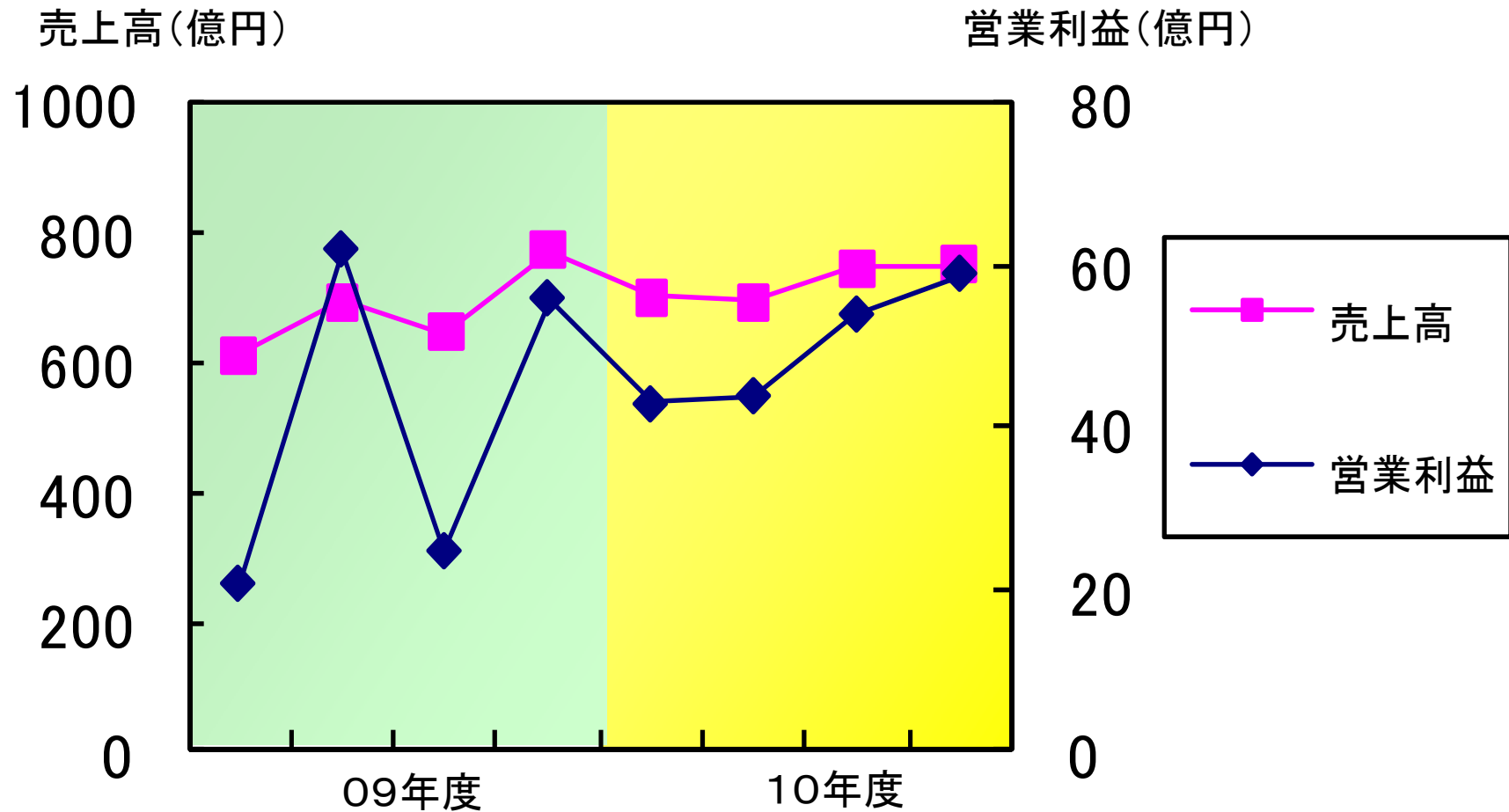
3.業績推移

① 四半期毎の売上高／営業利益推移

② ここ10年間の業績推移

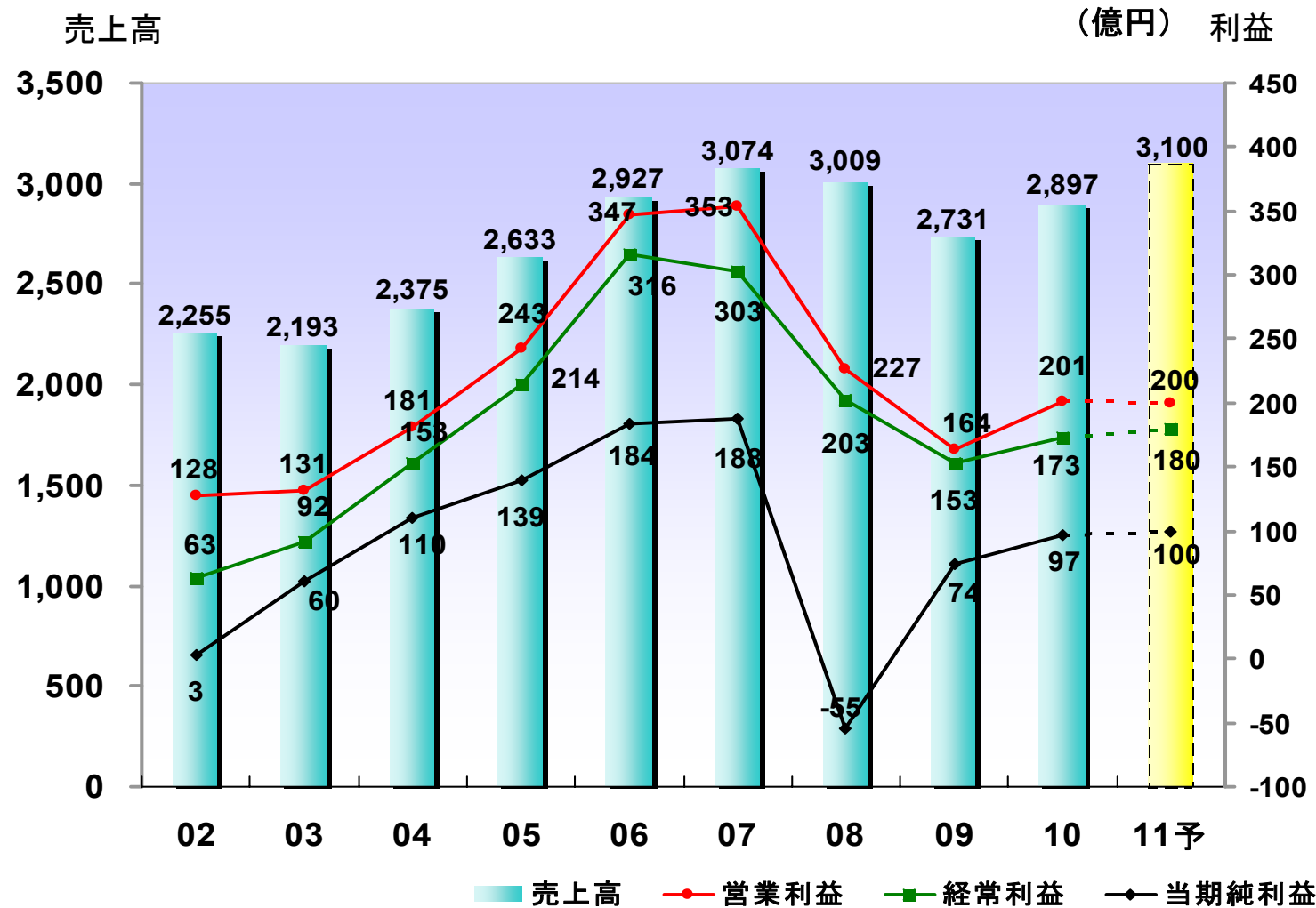
② 11年度業績予想／3.業績推移

① 四半期毎の売上高／営業利益 連結



② 11年度業績予想／3.業績推移

②ここ10年間の業績推移



3 前中期経営計画の総括

1.前3カ年計画の位置づけ

2.成長戦略の実績

3.成長戦略を支える仕組みの実績

4.2010年度達成目標(連結)の実績

5.2011年度の位置づけ

③ 前中期経営計画の総括

1. 前3カ年計画の位置づけ

- ・「挑戦と変革」をキーワードとした「100周年ビジョン」の第一ステップ
- ・100周年ビジョンの基本戦略に沿って成長戦略を推進

【成長戦略】

1. 攻めるための更なる選択と集中
2. グローバルで勝てる新規事業の創出
3. 生産性向上による競争力強化

【成長戦略を支える仕組み】

1. 経営資源の確保・最適配分
2. グローバル視点での人財育成
3. コーポレートガバナンスの強化

【2010年度達成目標(連結)】

- ・売上高 ; 3,700億円以上
- ・売上高営業利益率 ; 12%以上
- ・海外売上高比率 ; 22%以上

③ 前中期経営計画の総括

2.成長戦略の実績

成長戦略	実績
攻めるための更なる 選択と集中	<ul style="list-style-type: none"> ・徳山製造所で多結晶シリコンプラント増設 ・マレーシアで多結晶シリコンプラント起工 ・中国製造拠点の強化(徳山化工、上海徳山塑料など) ・セメント事業の再構築(キルン2基体制、人員削減など) ・シェイパル事業で薄膜事業から撤退、粉末・白板事業に集中 ・徳山製造所で湿式シリカの製造終了
グローバルで勝てる 新規事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・VLDの実証実験継続 ・モノシランの技術開発完了 ・燃料電池用膜のパイロットプラント新設
生産性向上による 競争力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報インフラの再構築完了 ・周南バルクターミナルの建設、一部運用開始 ・南総合工務室の建設

③ 前中期経営計画の総括

3.成長戦略を支える仕組みの実績

成長戦略を支える仕組み	実績
経営資源の 確保・最適配分	<ul style="list-style-type: none"> ・Si部門と機能材料部門を統合し特殊品部門を設立 ・技術戦略室、独立事業統括室の新設
グローバル視点での 人財育成	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア計画に連動した人財確保・育成開始 ・アジア人財会議の開催 ・グループ海外従業員 2008年3月末528名、2011年3月末709名
コーポレートガバナンス の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・経営機構の改革 ・執行役員制度へ移行を検討、2011年度から実施 ・社外取締役の設置を検討、2011年度から実施予定

③ 前中期経営計画の総括

4.2010年度達成目標(連結)の実績

	2010年度達成目標	2010年度実績
売上高	3,700億円以上	2,897億円
売上高営業利益率	12%以上	7.0%
海外売上高比率	22%以上	21.4%

金融危機による市場収縮や、防耐火樹脂サッシ問題に加えて、新規事業化の遅れ等により、海外売上高比率を除いて大幅に目標未達

③ 前中期経営計画の総括

5.2011年度の位置づけ

100周年ビジョン実現に向けた戦略再構築の年

- ・100周年ビジョンを達成するための企業風土の改革・組織機能の強化
(100周年ビジョン実現プロジェクト)
- ・社外取締役の設置をはじめとするガバナンスの強化
- ・情報インフラ、周南バルクターミナルの本格運用
- ・技術戦略室、独立事業統括室をはじめとした横串機能の強化
- ・防耐火樹脂サッシの改修完了

4 トピックス

1. トクヤママレーシア2期建設を決定
2. トクヤママレーシア起工式開催
3. 多結晶シリコン増産
4. 天津徳山塑料設立
5. 樹脂サッシ問題

4 トピックス

1. トクヤママレーシア2期建設を決定

急速に拡大する太陽電池向け多結晶シリコンの需要に対応

- 現在建設中のプラントと合わせ、年産20,000トンに
- 太陽電池用途で、現在5%程度の世界シェアを、当面10%以上に
 引き上げることを目標とする

【第2期プラントの概要】

建設場所	マレーシア サラワク州 サマラジュ工業団地
生産能力	年産13,800トン
プラント建設費	約1,000億円
製造技術	ジーメンズ法
用途	太陽電池向け
建設計画	2012年4月より建設開始 2015年1月営業運転を目指す

4 トピックス

2. トクヤママレーシア起工式開催

現地にて多結晶シリコンプラントの起工式を開催、建設に着手

- 2011年2月16日、マレーシアにて起工式を開催し、建設開始
- 生産能力6,200トン/年、総投資額800億円で、2013年6月に営業運転開始



ビンツルで開催された起工式の様子
(写真中央がタイブサラワク州知事)



プラント建設が始まった現場 (3/12)

4 トピックス

3. 多結晶シリコン増産

多結晶シリコンプラントの増設とデボトルネックング

- 生産量を1,800トン/年引き上げ、11,000トン/年へ
- 2011年11月着工、2013年春完成の予定
- 投資額は110億円



徳山製造所の多結晶シリコンプラント

4 トピックス

4.天津徳山塑料設立

「天津徳山塑料有限公司」を設立

- 2011年7月、中国における紙おむつ市場の伸長に対応するため、現地法人「天津徳山塑料有限公司」を設立し、微多孔質フィルムを生産
- 生産能力は1.2億m² / 年、投資額は約12億円で、2012年9月に稼働予定
- 中国での生産能力は、「上海徳山塑料有限公司」と合わせ3.6億m² / 年に

【新会社の概要】

社 名 : 天津徳山塑料有限公司
本 社 : 天津市西青開発区
出資比率 : 株式会社トクヤマ100%
資本金 : 590万USD(約4.9億円)(予定)
会社設立 : 2011年7月予定
稼働時期 : 2012年9月予定
従業員 : 約45名
代表者 : 総経理 河村知保(予定)
能力 : 1億2千万m²

4 トピックス

5. 樹脂サッシ問題

認定取得・改修・再発防止策の進捗状況

大臣認定の取得状況

- 改修に必要な認定取得はほぼ完了(4/30時点)
- 残りは特別仕様のみ(年内の取得完了を目指す)

改修の進捗状況

- 4,183棟のうち、49%の改修が完了(4/30時点)
- 改修はエクセルシャノン認定品で実施中
- 2012年3月末の改修完了を目指す

再発防止策の進捗状況

- 緊急、短期的、および中期的再発防止策をすべて完了

Chemistry with a heart

TOKUYAMA



5 補足資料

1. 決算概要
2. 主要原燃料価格推移
3. 主要指標
4. 設備投資額推移
5. 有利子負債残高推移
6. フリーキャッシュフロー推移
7. 主要グループ会社売上高

⑤ 補足資料

1. 決算概要① 営業外損益

(億円)

		10年度	09年度	差損益	備考
営業外収益	受取利息・配当金	6	6	+0	
	その他	28	27	+1	為替デリバティブ 取引精算益 +3 為替差益 ▲2
	計	34	33	+1	
営業外費用	支払利息・社債利息	18	17	▲0	
	その他	44	27	▲17	為替差損 ▲18
	計	62	44	▲17	
営業外損益		▲28	▲11	▲16	

⑤ 補足資料

1. 決算概要② 特別損益

(億円)

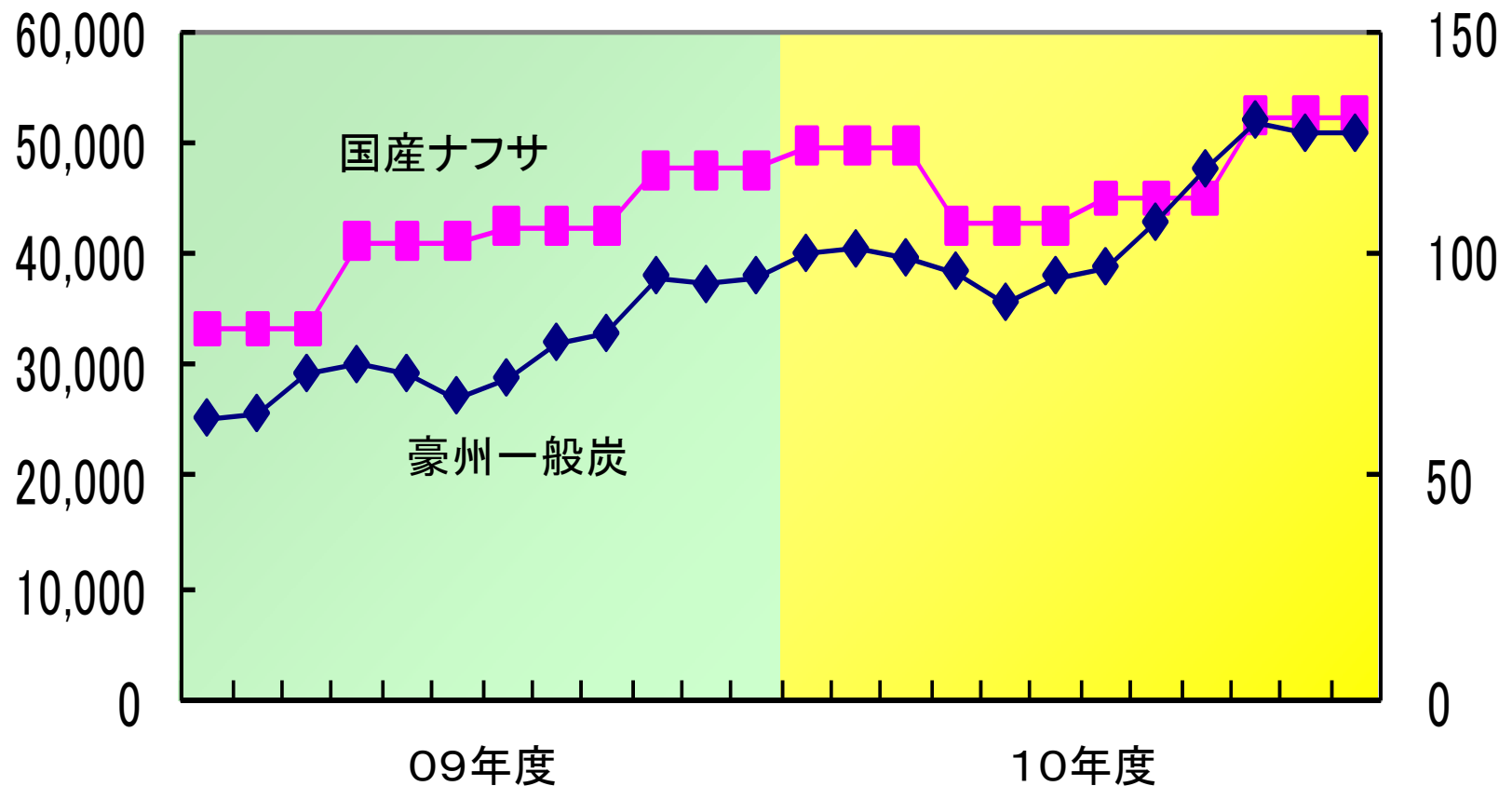
	10年度	09年度	差損益	備考
特別利益	26	22	+4	国庫補助金収入 +3
				投資有価証券売却益 +1
特別損失	44	46	+2	防火窓枠関連損失 +14
				事業化検討費用 +4
				製品補償引当金繰入 +3
				事業整理損 ▲15
特別損益	▲17	▲24	+6	

5 補足資料

2. 主要原燃料価格推移

国産ナフサ価格
 (円/KL)

豪州一般炭スポット価格
 (\$/トン)



⑤ 補足資料

3.主要指標① 前期比

		10年度		09年度		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	358	133	265	154	+92	▲20
減価償却実施額	億円	314	267	376	334	▲62	▲66
研究開発費	億円	114	94	118	100	▲3	▲5
金融収支	億円	▲12	+0	▲11	▲0	▲0	+1

⑤ 補足資料

3.主要指標② 前 期 末 比

		11年3月末		10年3月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	1,262	1,076	1,000	794	+261	+282
期末人員	人	5,493	2,195	5,444	2,172	+49	+23

⑤ 補足資料

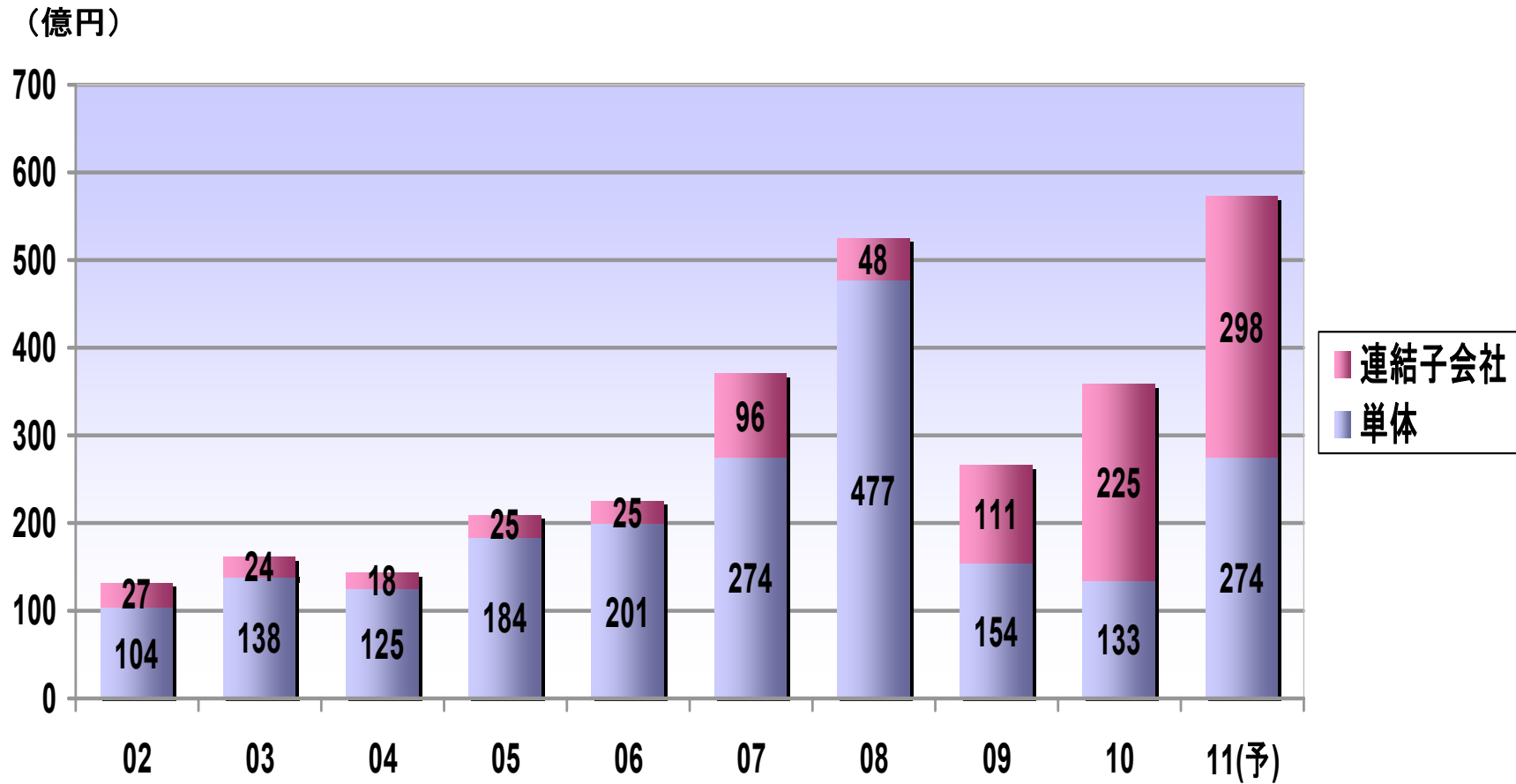
3.主要指標③ 予想の前期比

(億円)

		11年度予想		10年度実績		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	572	274	474	280	+98	▲6
	実績 (計上)	—	—	358	133	—	—
減価償却費		285	238	314	267	▲29	▲28
研究開発費		121	97	114	94	+6	+3

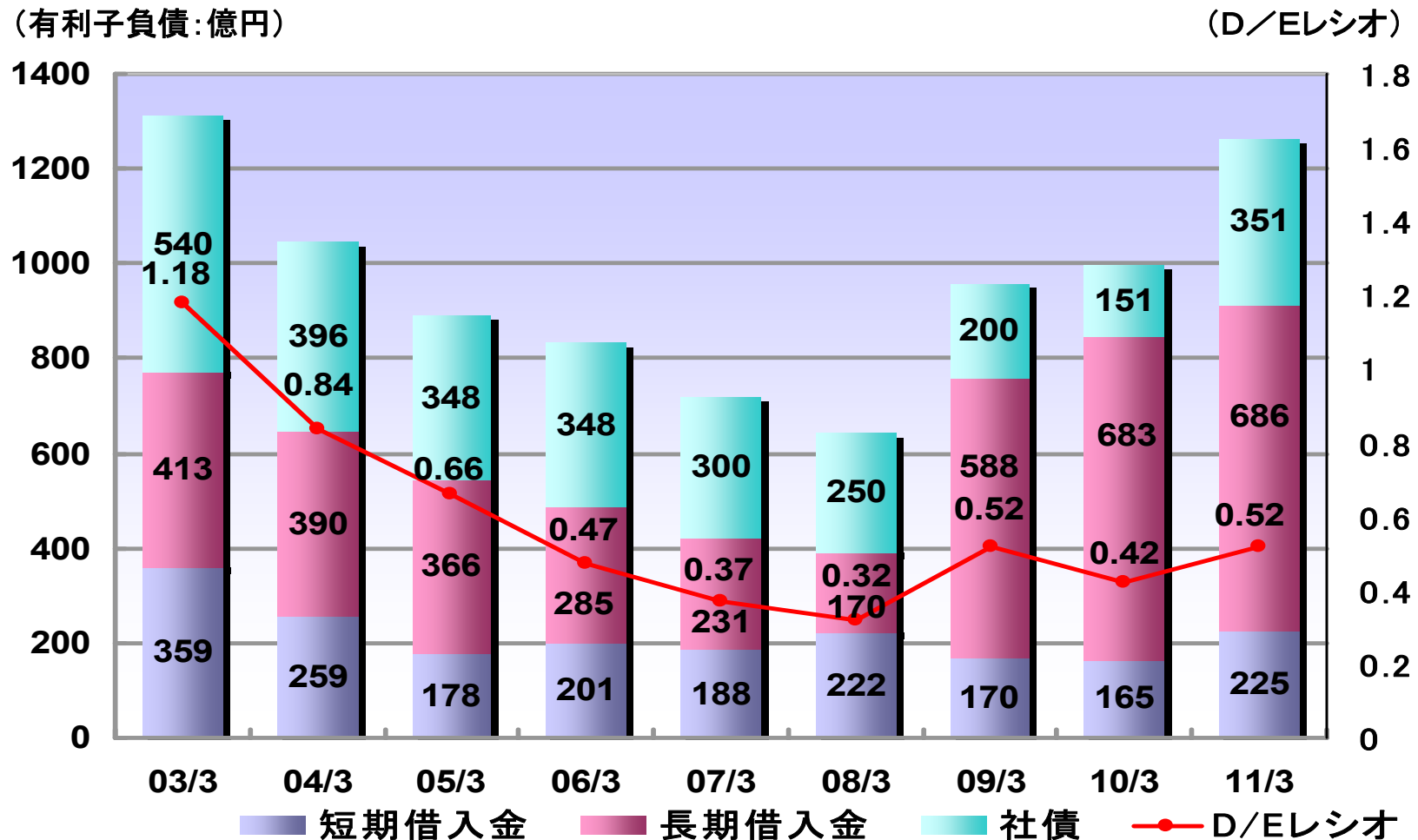
5 補足資料

4.設備投資額推移



5 補足資料

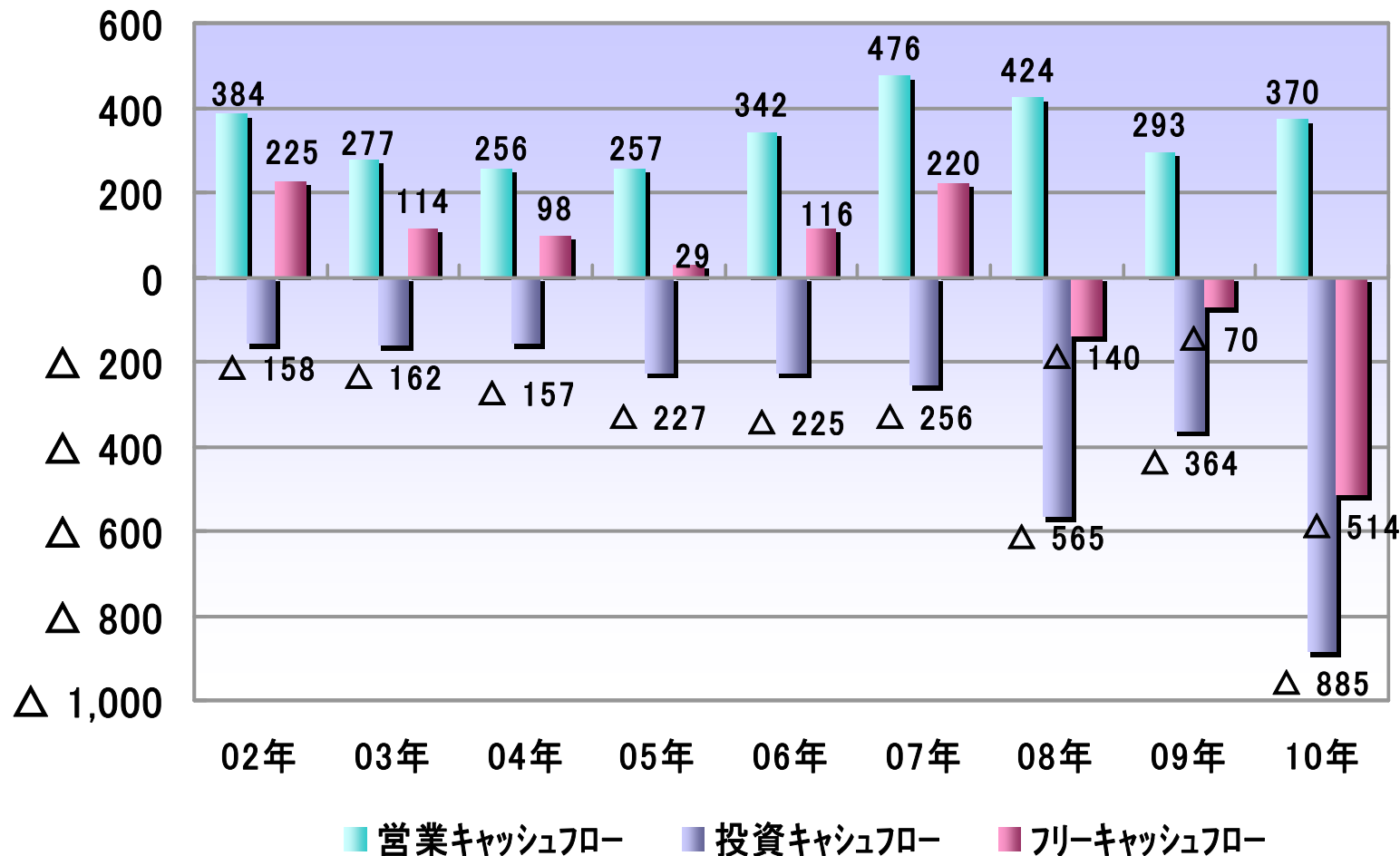
5.有利子負債残高推移 連結



5 補足資料

6.フリーキャッシュフロー推移 連結

(億円)



⑤ 補足資料

7. 主要グループ会社売上高

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高 (百万円)	
					10年度	09年度
①	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	18,498	16,096
②	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	18,142	16,864
③	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	15,978	15,259
④	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	8,790	8,686
⑤	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	7,862	7,165
⑥	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	7,777	6,866
⑦	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	6,773	7,409
⑧	フィガロ技研(株)	ガスセンサ素子及び応用製品の製造販売	99	100	5,276	4,502
⑨	徳山化工(浙江)(有) (12月決算)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	351.2 百万元	100	3,739	2,545

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。